

# SETOGIWA TIMES

発行所：行政書士塩見事務所 E-mail: [info@setogiwa.com](mailto:info@setogiwa.com) Web: [www.setogiwa.com](http://www.setogiwa.com)  
大阪市中央区谷町 2-5-4 702 号 Tel: 06-6946-9505

## ① 複雑な心境

「理屈も通じない、気持ちも通じない、話をするとムツとすることが多い。だからなるべく口を利かないで済むようにしている。」・・・離婚に至るかどうかはともかく、夫婦お互いの性格が如何にあわないかを説明する時によく出る話です。片方が思うことは多分相手も思っているでしょうから、こんなふたりの生活は楽しいはずがなく、いっそひとりで暮らそうかという気になっても不思議ではありません。

昔は最も近い関係であったはずなのに今は心が離れていて「話を通じない」、そんな相手との楽しくない生活。それでも心の中には「こんな生活に早くけりを付けたい」という思いと、「元の楽しい生活に戻れるものなら何とか戻りたい」という思い、二つの矛盾する思いが複雑に入り交じっているようです。

「年を取って病気になるかも知れない。そんな時だれも自分の回りにいない、だれも自分を気遣ってくれる人がいないのは耐え切れない寂しさだ。」

なるほど、分かります。ではその時のために、ただただ我慢して一緒に暮らしますか？それともなにか別の方法を考えますか？

## ① タマゴとニワトリ

コミュニケーションの不足と性格の不一致はタマゴとニワトリの関係です。



人間の思考方法にはある種のパターンがありますから、常にコミュニケーションがあれば、相手が今何を考え次に何を言おうとしているかある程度予測がつき「話を通じない」という現象は起こりにくいでしょう。コミュニケーションが不十分のままでいきなり自分とは違った考えを聞かされると、相手の

流れに乗れず「話が通じない」となるのです。

ある人の思考方法のパターンが急激に変化することは滅多にありません。何らかの刺激や影響を受けたとしても、その人自身の思考パターンは徐々に変化するものです。仮に刺激や影響により思考パターンが急激に変化したとしても、その人固有のものとして定着しない限り長続きせず、熱が冷めれば元の思考方法に戻ります。長い時間をかけて変化したものは簡単には元に戻りません。

## ① どこまで相手を知ることができるのか

誰にでも知られざる一面というものがあります。読者の皆さんは、ある人の意外な一面を知って驚いた覚えはありませんか？歴史の長い夫婦であっても、どれだけ相手のことを知っているかと考えてみたとき、意外と知らない部分があるものです。同じ職業、同じ趣味、同じ思想であってもです。

心理学者の河合隼雄は「人間は秘密があるから自分というものがあるのであって、秘密がなければ自分ではなくなってしまう」と言っています。彼は何も秘密を持つように勧めているわけではありませんが、彼の考えによればどのような人間関係の中でも人間は個人として尊重されるべきであり、夫婦だからと言って自分の心の中を全て相手に打ち明ける必要はないということになります。



回復の見込みがないと自覚している入院患者が見舞い客に「うちのやつは私が早く死ねばいいと思っているに違いない」と愚痴をこぼしたとします。

妻は彼に面と向かって「早く死んで欲しい」と言ったわけではないでしょうが、病気の原因が本人の不摂生によるものであれば「あなたの自業自得よ」ぐらいは、言ったかもしれません。

「だから気をつけてって言ったのに」という悔しい気持ちのあらわれなのか、「自分のせいだからしょうがない」と突き放したのか、さて妻の心の中は？

ほかにもできます：相続・遺言/交通事故/告訴・被害届/パスポート手続

E-mail: [info@setogiwa.com](mailto:info@setogiwa.com) Web: [www.setogiwa.com](http://www.setogiwa.com)

自分のことを洗いざらいしゃべらずに済まない人に出会ったときには閉口します。聞きたくない秘密でも話が終わるまで解放してもらえません。